

4. 令和6年度 学校評価

加賀市立三谷小学校

<p>学校教育ビジョン</p> <p>◇学校スローガン 児童一人一人が主役の学校</p> <p>◇学校教育目標 仲間と共によりよい社会を切り拓く 資質・能力の確実な育成</p>	<p>◇めざす児童像</p> <p>心豊かでたくましく、しっかりと考え、自ら進んで行動する子</p> <p>①よく考え、自分から進んで行動する子 ②心身ともに健康で、何事にも粘り強く挑戦しやりぬく子 ③思いやり気持ちをもち、認め合い高め合う子 ④郷土を愛し、家庭や地域の人々に感謝の気持ちをもつ子</p>	<p>◇めざす資質・能力</p> <p>生きて働く知識・技能（学び方の習得 見方・考え方 聴き合う力 道徳的価値等） 未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力（人と関わる力・学びを生かす力・社会をつくる力 等） 学びを人生や社会に活かそうとする学びに向かう人間性（情報収集意欲 自主的実践的態度 参画意識 等）</p>
--	--	--

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考
①教育課程・学習指導	学校研究と連携し、児童に付きたい力を意識した授業づくりに取り組み、学力の向上を目指す。	各学期ごとに国語と算数の重点単元を設定し、学校研究と連携した授業づくりを行い、重点単元での学力向上に取り組む。	教務主任	昨年度の取組から、児童の書く力や説明する力に課題が残った。指導事項に合った重点単元を設定し、授業改善を行った。	【成果指標】 国語と算数の重点単元テストにおいて、児童に付きたい力が付いている。	重点単元テストで80点以上の児童が、 A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	1,2学期の重点単元テスト
②生徒指導 ※いじめの未然防止	いじめ問題対策チームを常設し、組織的にいじめ未然防止・早期発見に努める。	児童理解の会を毎月行い、情報交換をしながら、全職員で共通理解を図る。アンケートや相談活動を定期的に行い、現状把握と関係作りに努め、組織的に対応する。	生徒指導主事	生徒指導の4つの視点を生かした授業づくりに取り組んでいる。	【満足度指標】 児童が学校生活を楽しいと感じている。	アンケートで「学校が楽しい」と答える児童の上位回答の割合が、 A100% B90%以上 C80%以上 D80%未満	7月・12月に児童アンケートの実施
③キャリア教育・進路指導	児童がより良い成長を目指して、夢や希望をもって努力し、やり遂げた満足感を味わい、将来への夢や希望を膨らませて自己肯定感を高める。	キャリアパスポートを活用して、各種行事や活動等において、各学年の発達段階に応じて、児童自身がより良い成長を目指した目標を設定し、達成できるようにする。また、目標に対する振り返りを行い、次につなげるようにする。	キャリア担当	行事や活動において個人の目標に向かって努力する児童が多い。今年度も、児童自身がより良い成長にむけた目標設定をし、達成に向けて支援していく。	【努力目標】 行事や活動等において、児童がより良い成長を目指した目標設定をし、その達成に向けて努力することができる。	児童アンケートにおいて、行事や活動等で、児童が目標設定したことに対して「自分自身が成長した、目標達成に向けて努力した」と肯定的に答えた児童の割合が、 A100% B90%以上 C80%以上 D80%未満	7月・12月に児童・教職員アンケートの実施
④保健管理	心身の健康保持に関心をもたせ、メディアコントロールの意識向上に向けた指導の充実を図る。	児童委員会活動を中心に、メディア使用が及ぼす心身の健康への影響とメディアとの上手な付き合い方について関心をもてるよう働きかける。	養護教諭	継続した取組から児童がメディアの使用について関心をもつことができる。タブレット使用時の姿勢が悪い児童、視力がB以下の児童、脊柱側弯症・姿勢異常と診断される児童がいる	【成果指標】 健康に留意したメディア使用を心がけることができる。	「健康に気をつけてメディアを使用することができた」と答えた児童の割合が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	7月、12月に児童アンケートの実施
⑤安全管理	防災の知識や意識を高め、「自分の命は自分で守る」ために、児童が自ら考え、その場に応じた行動ができることを目指す。	「自分の命は自分で守る」行動が取れるように、事前・事後の指導の充実を図り、児童・教職員がめあてをもち訓練に臨む。	教頭	昨年度の能登大震災の経験もあり、災害から「自分の命は自分で守る」という意識の高まりはみられる。	【努力目標】 「自分の命は自分で守る」を合言葉に、事前・事後の指導の充実を図り、児童・教職員がめあてをもち訓練に臨む。	「自分の命は自分で守る」ために、めあてをもち訓練に取り組むことができたという児童・教職員の上位回答の割合が A100% B80%以上 C70%以上 D70%未満	7月・12月に児童・教職員アンケートの実施
⑥特別支援教育	児童の困り感や特性を共通理解し、全職員で支援策を検討・共有・見直しをし、個に応じた支援体制を整える。	児童理解の会、特別支援校内委員会を定期的に実施し、支援を必要とする児童の理解を深め、個に応じた支援策を検討したり、支援体制を整えたりする。	特別支援教育コーディネーター	学習面・行動面で気になる児童について、教職員で共通理解を図っている。児童が安心して学びにむかえるよう、特に学習支援が必要な児童について情報交換し、支援体制を整えていく。	【努力目標】 個に応じた支援をするために、職員間で児童への共通理解を深め、支援策を検討したり支援体制を整えたりする。	個に応じた支援をするために、児童への共通理解を深め支援策を検討したり支援体制を相談したりできたと答えた教職員の上位回答の割合が、 A100% B90%以上 C80%以上 D80%未満	7月・12月に教職員アンケートの実施
⑦組織運営・業務改善	担当業務を見直し、業務の精選、重点化を図り、取組をシンプルにする。	各部の取組を洗い出し、取組の精選、重点化を図り、取組をシンプルにする。各部で連携を図り、実践につなげる。ICTを活用し、業務の効率化を図る。	教頭	昨年度末に業務の見直し、精選、重点化を図った。	【努力目標】 業務の精選、重点化を図り、取組をシンプルにし、各部が連携を図り効率的に業務改善に取り組む。	業務の精選、重点化を図り、取組をシンプルにし、各部が連携を図り効率的に業務改善に努めることができたという児童・教職員の上位回答の割合が、 A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	7月・12月に教職員アンケートの実施
⑧研修	付きたい力を付けながら自律して学び進める児童の育成を目指す。	学力向上と連携しながら、付きたい力を明確にし、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図った授業づくりと実践、振り返りを全員で繰り返す。	研究主任	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るための手立てを検討し、振り返りの充実を図ることで、児童が自律して学び進めることができるよう、共通実践をさらに進めていく必要がある。	【努力目標】 児童が、ゴールに向かって学び進めることができるよう、授業づくりに取り組む。	学習のゴールに向かって自分で学び進めることができたという児童と、児童の自律した学びに繋がる授業づくりができたという教員の上位回答の割合が、 A90%以上 B80%以上 C60%以上 D60%未満	7月・12月に児童・教職員アンケートの実施
⑨保護者、地域との連携	地域の魅力を生かした実践を通して、児童の地域への感謝や誇り、郷土愛の心を育てる。	地域の方との連携を図り、地域人材や地域教材を生かした授業実践を行う。	教頭	豊かな自然、人材等、学びの環境が大変充実している。学校運営協議会の取組が充実している。	【成果指標】 児童が、授業で地域の人から学ぶ機会をもち、地域の魅力を学ぶことができる。	授業で地域の人から学び、地域の魅力を知ることができたという児童・職員の上位回答割合が、 A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	7月・12月に児童・教職員アンケートの実施
⑩教育環境整備	児童が自己の学びを自覚し、学習意欲を高め学び進める等、教育効果を高める学習環境の充実を図る。	児童の学びの足跡、既習・成果物等、教育効果を高める学習環境整備に努める。	教頭	児童が自己の学びを自覚し、学習意欲を高め学び進める等の学習環境の整備に取り組んでいる。	【努力目標】 児童が自己の学びを自覚し、学習意欲を高め学び進める等の学習環境を整備する。	児童が自己の学びを自覚し、学習意欲を高め学び進める等の学習環境整備に努めたという児童・教職員の上位回答割合が A100% B80%以上 C70%以上 D70%未満	7月・12月に教職員アンケートの実施